

# 三原二中校長通信

校訓「響き合う二中っ子」  
キャッチコピー「響き合っていますか、私たち」

第11号  
平成23年11月16日

## 響き合っていますか、私たち！ — 生徒の姿は私達の鏡 —

校訓「響き合う二中っ子」はどの程度実現できていると思いますか。

- A 大変よく実現できている。
- B まあまあ実現できている。
- C あまり実現できていない。
- D 全く実現できていない。

あなたの回答は→( )  
学年の回答は →( )  
学校の回答は →( )



本校の今年度の研究テーマは次のとおりです。

言葉の力と体験の力によって「確かな学力」を育む  
—校訓「響き合う二中っ子」の実現を通して—

サブテーマにある「校訓『響き合う二中っ子』の実現を通して」が研究の重要なポイントといえます。校長の私は、3年前に本校に赴任して以来ずっと校訓「響き合う二中っ子」を重視し、その実現を図るべく学校経営を進めてきました。

今から25年前の二中創立45周年記念として創設された校訓です。この校訓「響き合う二中っ子」は校門正面に立派な石碑として輝いています。その当時の時勢から、この校訓は荒れた生徒の心を束ねる願いが込められていたことが容易に理解できます。

「響き合うこと」は、時代が変わろうとも変わってはならない不易の価値です。教育の原点ともいえるキーワードです。だからこそ二中の校訓は誇ることができる立派な校訓として、私たち二中の関係者(生徒・教職員・保護者・OB,OG)が大切にしていかなければなりません。

このことを生徒のみに求めるのではなく、私たち教職員も「響き合っているかどうか」を自問自答して見る必要があります。私たち教職員が「響き合うこと」ができていなければ、生徒に「響き合うこと」を求めることもできないでしょう。

生徒の姿は私たち教職員の鏡です。ルールを守らない生徒か悪いのか。ルールを守らせない教職員が悪いのか。「どちらも悪い」というのが正論でしょう。ルールを守らない生徒の実態は、ルールを守らせない教職員の実態と一致しているとみなすのが妥当性のある回答といえます。では、どうすればよいのか。それは、当たり前前の方が当たり前前できるように生徒をしつけることです。私たち教職員にはそのことを達成するべく具体的な指導が求められています。同じベクトルをもって同じ指導を徹底することです。

「響き合っていますか、私たち。」今一度、このキャッチコピー(合言葉)の意味を噛みしめて欲しいものです。

- 生活四訓(挨拶・時間厳守・整理整頓・立腰)の徹底
- 相互作用(対話)の場の設定とパイロット役
- 生徒指導の三機能(自己存在感・自己決定・共感的人間関係)を生かした授業づくり

